

インテリアコーディネートと擬似平行ワールド

岡留優



ワークショップの概要

普段の生活の中で、あっちやこっちにものを無造作に置いてしまう。そのようなことは往々にしてあると思います。

後に片付けるものだとしても、何かの作業（例えば料理、仕事、制作、など）の間、ものを無造作に置くという状況が発生すると思います。

このワークショップでは、その無造作に置かれたものの配置を通して、日常的な行為を顧みたり、ものが置かれる環境や構造について考えていきたいと思っています。

ものの配置や位置関係はそのままに、その構造だけを取り出して、伝言ゲーム的にもものを入れ替え、なにかナラティブが発生するのかもしれないか。ある偶然のものの配置に現れる、過去の行為の痕跡に対して、絶えず翻訳・変換・誤読をしていき、逆説的に現在の行為を作り出して（捏造して）いきます。

その経験を通して、参加者自身が、日常的な行為・動作をなんとなく意識化することを目指しています。

詳しくは、解説動画の1をご覧ください。



解説動画 1 : <https://youtu.be/ZL4RO8mKcw>

内容

参加人数	2人以上
場所	「無造作にものが置かれているな」と感じた場所
時間	参加者同士で決める
持ち物	任意の物品（あれば）、カメラ、三脚（推奨）

詳しくは、解説動画の2と3をご覧ください。



解説動画2（STEP1—STEP4）：<https://youtu.be/SBPEfjVnIKo>



解説動画3（STEP4—STEP7）：<https://youtu.be/a-5eLZojwos>

STEP 1

自分の部屋、デスクの上、倉庫の中、どんな場所でもいいですが、生活の中で無造作にものが置かれた状況を見つけます。(それは不意に現れるもので、作り出すものではない)

本ワークショップは、各自が見つけたその場所が会場になります。

STEP 2

記録用のカメラをセットする。(動画記録が望ましい)

STEP 3

そこにおいてあるものの性質(色、かたち、材質、重さなど)を分析する。どうしてこの配置になっているかなど、参加者同士で話し合ったり、状況について観察する。

写真をとったり、スケッチしたり、もの同士の距離を測定したり、など...

STEP 4

ある程度観察がおわったら、もの同士の位置関係が変わらないように注意しながら、伝言ゲーム的にもものを入れ替えていく。テーマを決めると目標ができて楽しい。

(このとき、既存のもの以外になにか新たに物体を作ってもいい。時間かかるけどそのパートがあっても楽しい。)

見つけた周りにあるものの性質に左右されるので、描画材のように、参加者が各自でいろんなものを持ち込んでもいい。

STEP 5

ある程度入れ替われば、その状況について、参加者同士で意見交換をする。

STEP 6

また作業に戻る。(④と⑤を何度か繰り返す)

STEP 7

適当にキリのいいところでやめる。終わる前に、できるだけもとの状態に戻す。(片付け)

ワークショップは、数分間でもいいし、何日間か継続して開催するのもあり。

終わりに

いかがでしたでしょうか。(いかがでしたかと聞かれても困るような内容だった
かもしれませんが)

本ワークショップはドローイングのようにラフで、かつ、やろうと思えば終わりのないもので、ずっと過程の中での作業になります。

手探りと協働、即興性を軸に、必ずしも結果を定めないのでポイントです。

やめる時は、事前に設定した時間的ルールか、設定していなければ当日の参加者同士のノリ、話し合いなどで一時的に決まるときがいいでしょう。

なのであまり結果を求めず、参加者同士の成り行きで即興的に楽しみつつ、出来上がる意味不明な状況と、普段の行為について、思いを巡らせてください！なるべく僕も駆けつけます。

ワークショップコンテンツ制作協力：津村侑希